

1 活動概要

本校の総合的な学習の時間では、4つの学習領域「自然にやさしい農業」、「水といのち」、「身近な他者とのかかわり」、「森の学習と未来への選択」を設定し、学年で一つの領域を学習して3年間で全てを学習できるようにしている。また、小学校との連携学習もこの中で行っている。

今年度は、全校生徒5名という小規模の学校になったため、全学年の取組として、「未来への選択としての森の学習」という学習領域を行ってきた。地域での学びを通して、地域の良さを継承しつつ、更に発展させていくという自分の役割に気づかせることをめざすものとした。

2 本実践事例について

(1) 本事例実施の背景・これまでの取組

「総合的な学習の時間」に、地域を基盤とした学習「持続可能な開発のための教育(ESD)」をテーマにして、学習を始めて今年度で7年目になる。

学習のねらいは、「ふるさと栗谷を愛し、グローバルに考え、行動できる子どもを育てていこう」というものであり、地域の題材を通して、未来につながるものを見つけていこうとするものである。地域の良さ(自然・人間・文化・つながり)を生かした学習を進め、自分を見つめることと他者とのつながりを大切に、「生きる力」を育てていきたいと考えて行ってきた。

取り組んできた学習は、自然・環境では「バイオマス資源の活用と実践」「生物資源型農業の体験(アイガモ農法と不耕起農法を取り入れたもの)」、人との関係では「一人住まいの高齢者の方への訪問」であり、中学校全学年と小学校との連携学習で実践した。

学習内容

(1) 「森の資源」の活用による調査研究

(2) 森の活用の実践体験活動

① 4月：シイタケ栽培 ② 5月：炭焼き体験 ③ 7月：グリーンツアリズムとしての沢登り体験

④ 11月：バイオマス資源の活用でロケットストーブの設置 ⑤ 12月：ペレットストーブの講演と設置

(3) 古代米の米作り(アイガモ放鳥と不耕起栽培：苗づくり、田植え、水の管理、稲刈り、精米)

(4) 一人住まいの高齢者へのおたっしやメール(色紙・プレゼント)を贈る

(2) 指導のポイント

☆ ロケットストーブの製作を通して、与えられた情報から、自らがどう判断し、よりよいものをつくっていくかという、課題を解決する資質や能力を育てる(付けたい力1)。

☆ ロケットストーブの製作を、外部講師と交信しながら、全員で協力して作業することにより、問題の解決に向けて協同的に取り組む態度を育てる(付けたい力2)。

☆ ロケットストーブという、化石燃料を用いない暖房システムの構築に向けて考え、行動していけるようにする(付けたい力3)。


3 学習指導案

◎本時の授業… (11月17日) ロケットストーブの製作 (本体から煙道, 蓄熱部を作る)

(1) 本時のねらい

外部講師とのインターネットテレビ会話で, 製作の問題点や課題を解決しながら, 完成させる。

(2) 対象学年 第1, 3学年

	学習活動	指導上の留意点	評価
課題把握	1 前回の設置作業を確認して, 今回の目標と課題をつかむ。		
自力解決	2 これまでの製作状況の報告をする。 ヒートライザー頭部の耐火セメント塗りや出口煙管部が確実にできているかを確認。	・インターネット回線で双方からあいさつを交わし, 発信状態とこれまで製作した所についての確認ができるようにする。	製作状況を正しく表現し, 伝えられているか。(観察)
集団解決	3 作業を協同で行い, 完成させていく方法を考える。 今回の作業で特に注意しなければならないところはどこですか。	・わからない所は随時発信をしながら確かめていけるようにする。	疑問点を明確にし, 適切な質問を行うなどの思考ができてきているか。(観察)
	4 発信しながら作業をする。 (煙道の設置, 蓄熱部のやり方, 赤土で固める方法など)  テレビ会話で発信している様子	・細部にわたる所はカメラを移動してよくわかるように発信する。 ・生徒の疑問が反映できるように促す。	
	5 煙道が完成したら, 試運転での点火をする。 6 蓄熱部の形成の仕方を習い, 完成へ。		
まとめ	7 今日の作業を振り返っての感想と今後しておく事の確認		

4 生徒の反応 (授業後の感想等)

10月13日, 「日本ロケットストーブ普及協会」の方にストーブの説明を聞き設置をした。この日は, 本体部の設置で終わった。11月17日に, 仕上げをした。細かいところは「日本ロケットストーブ普及協会」の石岡さんと連絡を取りながら進めた。1回はインターネットテレビ会話=スカイプを使って相互に発信し, 指導してもらいながら組立を行った。



設置作業①ヒートライザー部の設置②ヒートライザー頭部塗り③本体部の完成
インターネットTV会話での製作: ④土台の赤土塗り⑤火入・試運転

ロケットストーブのたきつけをして, 火をおこしまきを取りに行く大変さ, 火のよさを考えた。山や木が少しずつ, かれているので, もう一度見つめなおし, 大切にしていこうと思う。

灯油ストーブと温まり方がどう違うのか確かめたい。ロケットストーブは資源の乏しい国では役立ちそうだ。かまどの代わりにもなるので, フィリピンの山岳地帯に住んでいる人たちや学校に送ろうと思う。

「持続可能な社会」づくりの担い手をはぐくむ「中学生熟議」

広島県立広島中学校

1 活動概要

グローバルな視野で、生徒が環境問題や人権問題などを考え、それらの課題を自らの問題として取組成果をあげていくためには、「問題や現象の背景の理解」、「多面的かつ総合的なものの見方」をはぐくむことが必要であり、「体系的な思考力、批判力」、「データや情報の分析力」、「コミュニケーション能力」などの育成が欠かせない。同時に、「よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度」を育てたり、「人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力」を養ったりすることも重要である。

「中学生熟議」とは、中学生が学校という社会の一員として、さらには広く社会の一員として、よりよい集団生活や人間関係を築くために「話し合い」を重ねながら「共同して取り組む一連の自主的、実践的な活動」を生み出そうというものである。中学生が集団生活の中で直面する身近な問題について、よりよい生活づくりを目指し、熟考しながら話し合いを重ね、社会に参画する態度や自治的な能力を育成していく。

2 本実践事例について

(1) 本事例実施の背景・これまでの取組

本校では、平成 17 年度から中学校第 3 学年に進級する前に、リーダーを育て自治的能力を高めるために、生徒会を中心とした「リーダー・セミナー」という合宿を実施している。

「リーダー・セミナー」では、リーダーとしての心構えやリーダーシップのあり方について講義を受け、身近な課題を取り上げ話し合ったり、協同して取り組む自主的な企画の立案をしたりする。平成 23 年度は選挙で選ばれたばかりの生徒会役員を中心に 32 名が参加し、2泊3日の日程で実施した。

「熟議」では、学校生活における自分たちの学年生徒の課題をブレインストーミングやマッピングなどの手法を用いて整理し、学年生徒全員に共有を図るために学年集会を企画・実施させた。その後、課題を解決していくための企画、提案を行い、実行へと移していった。

(2) 指導のポイント

- ☆ 「中学生熟議」のテーマとしては、発達段階に即して、身近な生活の諸問題から「あいさつ」や「遅刻」等の課題を取り上げ、集団での解決が可能なものを選定させる。特別活動において実践する場合は、集団づくりに関わるテーマとする。
- ☆ 話し合う目的に即して内容や進め方、まとめ方の方向性を決めるなど見通しをもって話し合いの計画を立てさせる。その際、多くの考えが出るような手法として、ブレインストーミングやマッピング法などの手法を用いることも有効である。 (付けたい力 1)
- ☆ 自主的な活動にするために、司会や記録などの役割を分担し、一人ひとりが自分の意見を述べ合い、考えを深める場面を設定させる。お互いの意見を尊重するような話し合いのルールを作り、全員に意見が伝わるように事例や根拠をあげて説明させる。 (付けたい力 2)
- ☆ 集団としての結論を導き、一人ひとりが納得して解決に取り組むようにすることが大切である。 (付けたい力 3)

3 指導計画

◎ 本実践は、特別活動における生徒会活動に係るリーダー研修会である。担当教員の指導の下、生徒会役員を中心とした生徒がリーダーシップを十分に発揮して話し合い活動を進める「中学生熟議」である。

(1) ねらい

立場や考え方の違う人の考えを理解するとともに、相手を尊重しながら、協同的に課題を解決することができる力を培う。

(2) 対象学年 第2学年(全5時間)



	学習活動	指導上の留意点	評価
課題把握	1 目標を確認し、見通しをもつ。 リーダーによる中学生熟議1 (50分) 2 学校生活における自分たちの課題について話し合う。 3 課題を整理し、「見える化」する。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習意欲を喚起する。 付箋などを活用させ、ブレインストーミングで多様な意見を出させる。 マッピングの手法を活用し、課題を分類・整理させる。 	
目標設定	リーダーによる中学生熟議2 (50分) 4 課題を学年生徒全員に共有させるために、学年集会の企画を立てる。 リーダー主催の第1回学年集会 (25分) 5 第1回学年集会を実施し、課題の共有を図る。 リーダーによる中学生熟議3 (50分) 6 第1回学年集会で出た意見を踏まえ、目標を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> 学年の各クラスと連携し、時間を設定する。 学年集会の企画・運営を生徒にさせる。 学年集会後、運営上の課題を整理させる。 	【関心・意欲・態度】 ○立場や考え方の違う人の考えを理解しようとするとともに、相手を尊重しながら、協同的に課題を解決しようとしている。〔観察〕
課題解決	リーダーによる中学生熟議4 (50分) 7 目標を達成していくための計画、方法、役割分担を決める。 リーダー主催の第2回学年集会 (25分) 8 第2回学年集会を実施し、解決に向けた実施計画を提案する。	<ul style="list-style-type: none"> 進め方、まとめ方の方向性を決め、見通しをもって計画を立てさせる。 誰にでもわかるように、計画書にまとめさせる。 	【思考・判断・実践】 ○「熟議」の意義を踏まえ、リーダーがそれぞれの立場を自覚し、全体の雰囲気大切にしながら活動している。〔観察〕
まとめ	リーダーによる中学生熟議5 (50分) 9 第2回学年集会の成果と課題を整理し、実行に移す準備をする。	<ul style="list-style-type: none"> 全体で決定していったことを、どのように実行に移すかを具体化し、組織的な行動に移させる。 	【知識・理解】 ○「熟議」の意義を踏まえ、立場や考え方の違う人々を理解している。〔観察〕

4 生徒の反応

自治的な活動の大切さを学びました。このセミナーに参加していなかったら他人まかせにして、集団に対する意識を高めることができなかったと思います。

皆で団結し、話し合いを重ねることでリーダーとしての責任が持てるようになりました。最初は、集団を引っ張っていくことだけがリーダーの仕事だと思っていましたが、裏で支えたり、意見を出したり、全体の事を考えて行動するというのもリーダーの仕事なのだと実感しました。

参考 「中学生熟議」のすすめ(文部科学省)



1 活動概要

第1部「戦争と平和」

第2部「今、地球は」

第3部「生命」

さまざまな実習・体験活動を盛り込みながら、自分が生きていることの意味や地球の過去と未来について学んでいる。また、「ラベルワーク」という手法を用いることによって、問題を様々な角度から客観的にとらえ自ら考え行動しようとする能力を養うようにしている。発表会では、その集大成として、パワーポイントを用いたプレゼンテーション等を生徒達自身で行う。

第1部の「戦争と平和」では、太平洋戦争をテーマに「戦争とは平和とは」について考察し、その集大成としてハワイ研修旅行を実施する。

第2部の「今、地球は」では、環境問題、エネルギー問題についての実験・考察を行う。これまでの取り組みとしてエコクッキングを心がけた調理実習、全校生徒で取り組んだ「マイ箸週間」、学校周辺地域の清掃活動などがある。

第3部の「生命」では、沐浴実習・高齢者との交流・心肺蘇生法実習・保育実習と様々な自習を通して、人間が生まれてから老いていくまでを考えながら生命の尊さを学んでいる。

2 本実践事例について

(1) 本事例実施の背景・これまでの取組

以前は、外部講師を招いてエコクッキングの講義及び実習を行っていた。講義や実習から得るものは多くあったが、生徒が受け身になるという欠点もあった。数年前から基礎知識についてDVD教材を用いて学習した後、実際に献立作成から後片付けまでを自分たちで計画し、実践している。授業では毎回感想を一文にまとめた「ラベル」を作成し、まとめの授業では作成した「ラベル」をもとに、自分たちが普段実践できることや、家族や周りの人たちに伝える方法などを自分たちで考えている。そして、一年の学習の集大成である学習発表会で発表を行っている。

(2) 指導のポイント

- ☆ 調理実習計画を立てるとき、誰でも継続的に取り組めるような調理方法であることや、経済的な問題と環境問題の関連について意識させる。（付けたい力1・3）
- ☆ エコクッキングや「マイ箸」持参など、自分たちでできる身近な環境対策を実践することで、今後も継続して主体的に取り組むことができることを意識させる。（付けたい力1・3）
- ☆ 「ラベルワーク」という手法を用いることによって、問題を様々な角度から客観的にとらえ、自ら考え行動する能力を養う。（付けたい力2・3）

3 学習指導案

◎本時の授業…

「エコクッキング」の実習計画を立てる

(1) 本時のねらい

環境を意識した、実習計画を自分たちで考案する。

(2) 対象学年 第3学年

	学習活動	指導上の留意点	評価
課題把握	献立だけでなく、準備（買い物）から後片付けまでの一連の計画をすべて立てる。	ゴミを出さない・材料をむだなく使うことを意識させて、計画を立てさせる。	環境の保全と経済活動の関連を意識して考察することができる。
自力解決	献立をもとに、一連の計画を各自で立てる。		
集団解決	各自で立てた計画をもとに、班での計画を立てる。役割分担及びタイムテーブルを明確にする。環境を意識した部分を全員で把握して、実習当日に実行できるように準備する。	計画のどの部分が環境を意識したところかを、班全員が理解した上で実習に入れるようにする。	協同的かつ責任を持った実習手順が組まれている。
まとめ	実習終了後に、ラベル新聞を作成する。	実習後に、ラベルを書かせることによって、環境を意識したところを明確にさせる。	一人ひとりのラベルについての共通理解と考察がなされ、実習の目的がラベル新聞によって表現できている。

4 生徒の反応（授業後の感想等）

にんじんを皮ごと調理するなど、ゴミがほとんどでない工夫をすることの大切さがわかった。

水をためてから食器を洗えば、水が無駄にならないなど、ちょっとした工夫が環境によいことを実感できた。

